

地理情報標準プロファイル Japan Profile for Geographic Information Standards (JPGIS) Ver. 2.1

JPGIS Ver. 2.0 平成 20 年 3 月からの改正内容一覧

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
1	序文	原規格の変更	ISO 19109	JIS X 7109
2	序文	原規格の変更	ISO 19110	JIS X 7110
3	3	記述の追加(原規格との整合)	JIS X 4159:2005 拡張可能なマーク付け言語 (XML) JIS X 7105:2001 適合性及び試験 JIS X 7107:2005 空間スキーマ JIS X 7108:2004 時間スキーマ JIS X 7111:2004 座標による空間参照 JIS X 7115:2005 メタデータ	JIS X 4159:2005 拡張可能なマーク付け言語 (XML) 1.0 JIS X 7105:2001 地理情報－適合性及び試験 JIS X 7107:2005 地理情報－空間スキーマ JIS X 7108:2004 地理情報－時間スキーマ JIS X 7111:2004 地理情報－座標による空間参照 JIS X 7112:2006 地理情報－地理識別子による空間参照 JIS X 7115:2005 地理情報－メタデータ
4	3	原規格の変更	ISO 19109:2005 Geographic Information — Rules for Application Schema Language	JIS X 7109:2009 地理情報－応用スキーマのための規則
5	3	原規格の変更	ISO 19110:2005 Geographic Information — Methodology for Feature Cataloguing	JIS X 7110:2009 地理情報－地物カタログ化法
6	4.1.1	基準とする規格の明示	UML を使用して表現する。	ISO/IEC 19501:2005, Information technology – Open Distributed Processing – Unified Modeling Language (UML) Version 1.4.2 (以下 UML1.4.2) を使用して表現する。
7	6 序文	原規格の変更に伴う修正	ISO 19109 (Geographic information – Rules for application schema) から、応用スキーマを記述するために必要となる基本的な規則を抽出及び翻訳し、プロファイルとして定義したものである。	ISO 19109 (Geographic information – Rules for application schema) を基に、技術的内容及び対応国際規格の構成を変更することなく作成した JIS X 7109 (地理情報－応用スキーマのための規則) から、応用スキーマを記述するために必要となる基本的な規則を抽出し、プロファイルとして規定したものである。

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
8	図 6-1	記述の変更(原規格との整合)	<p>The diagram shows the following classes and relationships:</p> <ul style="list-style-type: none"> GF_InheritanceRelation (Metaclass): + name[0..1]: CharacterString, + definition: CharacterString GF_FeatureType (Metaclass): + typeName[0..1]: LocalName, + definition: CharacterString, + isAbstract: boolean = false GF_AssociationType (Metaclass): + linkBetween: 0..* (to GF_AssociationType), + includes: 1..* (to GF_AssociationType), + carrierOfCharacteristics: 0..* (to GF_AssociationType) GF_PropertyType (Metaclass): + memberName[0..1]: LocalName, + definition: CharacterString GF_AttributeType (Metaclass): + valueType: TypeName, + domainOfValues: CharacterString, + cardinality: Multiplicity GF_AssociationRole (Metaclass): + cardinality: Multiplicity <p>Relationships:</p> <ul style="list-style-type: none"> GF_InheritanceRelation (0..*) Generalization GF_FeatureType (1) GF_InheritanceRelation (0..*) Specialization GF_AssociationType (1) GF_FeatureType (1) superType GF_AssociationType (1) GF_AssociationType (1) subType GF_AssociationType (1) GF_AssociationType (0..*) linkBetween GF_AssociationType (1) GF_AssociationType (1..*) includes GF_AssociationType (1) GF_AssociationType (0..*) carrierOfCharacteristics GF_AssociationType (1) GF_AssociationType (1..*) Role GF_AssociationRole (1..*) GF_AssociationType (0..*) constrainedBy GF_Constraint (0..*) GF_AssociationType (0..*) constrainedBy GF_PropertyType (0..*) GF_AssociationType (0..*) constrainedBy GF_AttributeType (0..*) GF_AssociationType (0..*) constrainedBy GF_AssociationKind (0..*) GF_AssociationType (0..*) constrainedBy GF_AssociationRole (0..*) 	<p>The diagram is updated with the following classes and relationships:</p> <ul style="list-style-type: none"> GF_Constraint (Metaclass): + description: CharacterString GF_AssociationKind (Enumeration): + ordinary, + aggregation, + composition GF_AssociationRole (Metaclass): + cardinality: Multiplicity, + valueType: CharacterString, + associationType: GF_AssociationKind, + isNavigable: Boolean = true <p>Additional Relationships:</p> <ul style="list-style-type: none"> GF_AssociationType (0..*) inheritedTo GF_InheritanceRelation (0..*) GF_AssociationType (0..*) inheritedFrom GF_InheritanceRelation (0..*) GF_AssociationType (1) featureType GF_FeatureType (1) GF_AssociationType (0..*) constrainedBy GF_Constraint (0..*) GF_AssociationType (0..*) constrainedBy GF_PropertyType (0..*) GF_AssociationType (0..*) constrainedBy GF_AttributeType (0..*) GF_AssociationType (0..*) constrainedBy GF_AssociationKind (0..*) GF_AssociationType (0..*) constrainedBy GF_AssociationRole (0..*)
9	6.1.3	記述の追加(原規格との整合)	(記載なし)	4. constrainedBy 関連役割は、この地物型に対する制約に関する記述を規定する。
10	6.1.4	記述の追加(原規格との整合)	(記載なし)	2. constrainedBy 関連役割は、このプロパティに対する制約に関する記述を規定する。
11	6.1.5	記述の追加(原規格との整合)	(記載なし)	2. [上位型から継承する関連]constrainedBy 関連役割は、この属性定義に対する制約に関する記述を規定する。

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
12	6.1.6	記述の追加及び変更(原規格との整合)	<p>属性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. cardinality:Multiplicity は、この役割で振る舞うことができ、もう一方の関連終端にある地物型の単一インスタンスと関連する地物型のインスタンスの数を示す。 2. [上位型から継承する属性] memberName:CharacterString は、関連役割の名前を示す。 3. [上位型から継承する属性]definition:CharacterString は、関連役割の記述を示す。 <p>関連</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Role 関連は、地物関連役割が部分となる関連を規定する。 2. [上位型から継承する関連]featureType 関連役割は、地物関連役割を含む地物型を規定する。 	<p>属性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. cardinality:Multiplicity は、この役割で振る舞うことができ、もう一方の関連終端にある地物型の単一インスタンスと関連する地物型のインスタンスの数を示す。 2. valueType:LocalName は、関連役割の型となる地物型を示す。 3. associationType:GF_AssociationKind は、この関連役割が関連、集成、合成のどの種類かを識別する。6.1.7を参照。 4. isNavigable:Boolean=true は、関連元地物から関連先地物に対して役割が参照できるかどうかの区別を示す。” true” の場合は参照可能,” false” の場合は参照不可能となり、初期値は” true” である。 5. [上位型から継承する属性]memberName:LocalName は、関連役割の名前を示す。 6. [上位型から継承する属性]definition:CharacterString は、関連役割の記述を示す。 <p>関連</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Role 関連は、地物関連役割が部分となる関連を規定する。 2. [上位型から継承する関連]featureType 関連役割は、地物関連役割を含む地物型を規定する。 3. [上位型から継承する関連]constrainedBy 関連役割は、この地物関連役割に対する制約に関する記述を規定する。

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
13	6.1.7	記述の追加(原規格との整合)	(記載なし)	<p>6.1.7 GF_AssociationKind</p> <p>GF_AssociationKind は、関連役割の関連種類を列挙するデータ型である。関連の種類は以下のとおりである。</p> <p>a) ordinary : 関連を示す。</p> <p>b) aggregation : 集成を示す。</p> <p>c) composition : 合成を示す。</p>
14	6.1.8	記述の追加及び変更(原規格との整合)	<p>属性</p> <p>1. [上位型から継承する属性] typeName[0..1]:CharacterString は、地物関連の名前を示す。名前は応用スキーマ内で一意でなければならない。ただし、地物関連では、この属性は任意である。</p> <p>2. [上位型から継承する属性]definition:CharacterString は、地物関連を記述する定義を示す。</p> <p>関連</p> <p>1. roleName 関連役割は、地物関連と、それに割り当てられる特定の関連役割を関連付ける。</p>	<p>属性</p> <p>1. [上位型から継承する属性]typeName[0..1]:LocalName は、地物関連の名前を示す。名前は応用スキーマ内で一意でなければならない。ただし、地物関連では、この属性は任意である。</p> <p>2. [上位型から継承する属性]definition:CharacterString は、地物関連を記述する定義を示す。</p> <p>関連</p> <p>1. roleName 関連役割は、地物関連と、それに割り当てられる特定の関連役割を関連付ける。</p> <p>2. [上位型から継承する関連]constrainedBy 関連役割は、この地物型に対する制約に関する記述を規定する。</p>

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
15	6.1.9	記述の追加(原規格との整合)	(記載なし)	<p>属性</p> <p>1. [上位型から継承する属性]typeName[0..1]:LocalName は、地物関連の名前を示す。名前は応用スキーマ内で一意でなければならない。ただし、地物関連では、この属性は任意である。</p> <p>2. [上位型から継承する属性]definition:CharacterString は、地物関連を記述する定義を示す。</p> <p>関連</p> <p>1. [上位型から継承する関連]roleName 関連役割は、地物関連と、それに割り当てられる特定の関連役割を関連付ける。</p> <p>2. [上位型から継承する関連]constrainedBy 関連役割は、この地物型に対する制約に関する記述を規定する。</p>
16	6.1.10	記述の追加(原規格との整合)	(記載なし)	<p>属性</p> <p>1. name[0..1]:CharacterString は、地物間の一般化/特化関連の名前を示す。この属性は任意である。</p> <p>2. description:CharacterString は、地物間の一般化/特化関連の記述を示す。</p>
17	6.1.11	記述の追加(原規格との整合)	(記載なし)	<p>6.1.11 GF_Constraint</p> <p>GF_Constraint は GF_FeatureType や GF_PropertyType に対する制約を規定する。</p> <p>属性</p> <p>1. description:CharacterString は、制約の内容を記述する。記述にあたっては、自然言語や OCL (Object Constraint Language : オブジェクト制約言語) などを使用する。</p>
18	7.2.3.9	記述の削除(原規格との整合)	備考 GM_Circle を構成する点は四点必要であり、始点と終点は一致する。	(削除)

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
19	図 7-22 図 7-24 図 7-25	記述の修正(原規格との整合)	TP_DirectTopo	TP_DirectedTopo
20	8.5.4	記述の変更(原規格との整合)	TM_TemporalPosition は、RS_CRS との関連及び属性 indeterminatePosition をもち、二つの下位クラスが存在する。	TM_TemporalPosition は、TM_ReferenceSystem との関連及び属性 indeterminatePosition をもち、二つの下位クラスが存在する。
21	図 8-6	記述の変更(原規格との整合)		
22	8.5.7	記述の追加(原規格との整合)	(記載なし)	<p>8.5.7 TM_ReferenceSystem</p> <p>TM_ReferenceSystem は、TM_TemporalPosition の時間参照系を規定する。</p> <p>属性</p> <ol style="list-style-type: none"> name:RS_Identifier は、使用する参照系の名称を RS_Identifier 型で記述する。なお、RS_Identifier 型については、附属書 2 で定義する。 domainOfValidity[0..*]:EX_Extent は、この時間参照系が適用される空間範囲及び時間範囲を EX_Extent 型で示す。なお、EX_Extent 型は、附属書 6 で定義する。

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
23	図 9-2	記述の簡素化	<pre> classDiagram class CV_DomainObject { <<Type>> } class GM_Object class TM_GeometricPrimitive CV_DomainObject "0..*" --> GM_Object : SpatialComposition CV_DomainObject "0..*" --> TM_GeometricPrimitive : TemporalComposition </pre>	<pre> classDiagram class CV_DomainObject { <<Type>> } class GM_Object CV_DomainObject "0..*" --> GM_Object : SpatialComposition </pre>
24	9. 2. 1	記述の変更	備考 この属性は、振舞いに対するパラメータであるため、JPGIS では” average” だけを定義している。	備考 JPGIS ではこの属性に対して値を設定する符号リスト型 CV_CommonPointRule として” average”, “low”, “high” を定義している。
25	9. 2. 4	記述の追加(原規格との整合)	(記載なし)	<p>9. 2. 4 CV_DomainObject</p> <p>CV_DomainObject は、被覆の空間定義域のひとつの要素を GM_Object の下位型の任意の組み合わせによって表現する。</p> <p>関連</p> <p>1. SpatialComposition 関連は、GM_Object の下位型の集成により被覆における定義域のひとつの要素の範囲を表現する。</p>
26	図 9-5	記述の変更(基盤地図情報への対応)	<pre> classDiagram class CV_Grid { <<Type>> + dimension : Integer + axisNames : Sequence<CharacterString> + extent : CV_GridEnvelope } </pre>	<pre> classDiagram class CV_Grid { <<Type>> + dimension : Integer + axisNames : Sequence<CharacterString> + extent : CV_GridEnvelope + origin[0..1] : DirectPosition + offsetVectors[0..1] : Sequence<Vector> } </pre>
27	9. 3. 8	記述の追加(基盤地図情報への対応)	(記載なし)	備考 原規格では、CV_Grid の下位型として Valuation 区画のクラスと Positioning 区画のクラスとが定義されており、Valuation 区画としての下位型である CV_GridValuesMatrix が Positioning 区画の属性を同時に継承してもよいと記述されている。JPGIS では、CV_Grid に Positioning 区画の属性を選択可能な属性として定義することによって原規格に準拠した継承関係を実現している。

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
28	9.3.8	記述の変更(基盤地図情報への対応)	<p>属性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. dimension:Integer は、グリッドの次元を表す。 2. axisNames:Sequence<CharacterString> は、グリッド座標軸の名称を、次元に対応した複数の文字列で表す。 3. extent:CV_GridEnvelope は、グリッド座標で表した被覆の範囲であり、各グリッドセルに対応したグリッド点の座標値の最小値と最大値を、CV_GridEnvelope データ型で表す。CV_GridEnvelope は二つの属性 (low 及び high) を CV_GridCoordinates データ型でもつ。CV_GridCoordinates はグリッド座標値を保持するデータ型であり、その実体は整数値の列である。整数値の個数は、グリッドの次元と一致する。 <p>備考 この座標値の対象は、被覆の範囲にあるすべてのグリッド点ではなく、グリッドセルに対応したグリッド点であることに注意する必要がある。すなわち、対象となるグリッド点の数は、グリッドセルの数と一致し、最もグリッド座標値が大きなグリッド点はこの対象ではない。</p>	<p>属性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. dimension:Integer は、グリッドの次元を表す。 2. axisNames:Sequence<CharacterString> は、グリッド座標軸の名称を、次元に対応した複数の文字列で表す。 3. extent:CV_GridEnvelope は、グリッド座標で表した被覆の範囲であり、各グリッドセルに対応したグリッド点の座標値の最小値と最大値を、CV_GridEnvelope データ型で表す。CV_GridEnvelope は二つの属性 (low 及び high) を CV_GridCoordinates データ型でもつ。CV_GridCoordinates はグリッド座標値を保持するデータ型であり、その実体は整数値の列である。整数値の個数は、グリッドの次元と一致する。 備考 この座標値の対象は、被覆の範囲にあるすべてのグリッド点ではなく、グリッドセルに対応したグリッド点であることに注意する必要がある。すなわち、対象となるグリッド点の数は、グリッドセルの数と一致し、最もグリッド座標値が大きなグリッド点はこの対象ではない。 4. origin[0..1]:DirectPosition は、グリッド座標系の原点の位置を表す。 5. offsetVectors[0..1]:Sequence<Vector> は、グリッド座標軸のそれぞれの方向を示すベクトル情報である。
29	9.3.8	記述の変更	<p>例 low=(0,0), high=(99,99)と設定されていた場合、被覆の範囲は 100 x 100 のグリッドセルに分割される。このとき、グリッド線は各軸に平行に 101 本ずつあり、グリッド点は 101 x 101 個存在することになる。</p>	(削除)

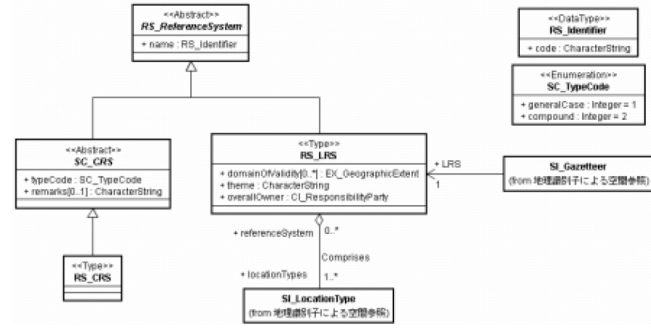
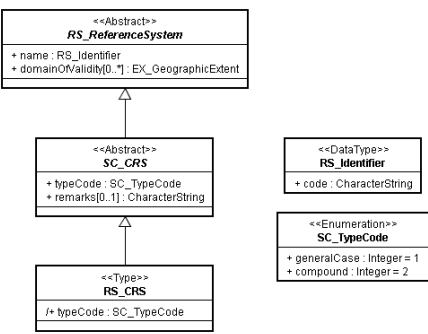
番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
30	9.3.8	記述の変更	備考 ISO 19123 では、CV_GridValuesMatrix は CV_Grid の Valuation 区画部分を継承すると定義されている。JPGIS における CV_Grid の定義は、この Valuation 区画部分に限定しているので、そのすべての属性を継承することになる。	(削除)
31	9.3.11	記述の変更	属性 1. point:CV_GridPoint は、グリッドセルに対応した幾何属性を CV_GridPoint データ型でもつ。この CV_GridPoint データ型は、グリッド座標値でグリッドセルを特定する。	属性 1. point:CV_GridPoint は、グリッドセルに対応した幾何属性を CV_GridPoint データ型でもつ。この CV_GridPoint データ型は、グリッドセルに対応したひとつのグリッド座標値を用いてそのグリッドセルを特定する。
32	図 10-1	記述の変更(原規格との整合)	<p>UML class diagram showing the previous structure. It includes classes like RS ReferenceSystem, SI Gazetteer, SI LocationType, and SI LocationInstance with various associations and inheritance relationships. A note indicates that geographic extent is used to specify location when information is insufficient.</p>	<p>UML class diagram showing the revised structure. It includes classes like RS ReferenceSystem, SI Gazetteer, SI LocationType, and SI LocationInstance with updated associations and inheritance relationships. A note indicates that geographic identifier is used to specify location when information is insufficient.</p>

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
33	10.2.1	記述の追加(原規格との整合)	(記載なし)	<p>10.2.1 SI_SpatialReferenceSystemUsingGeographicIdentifier 地理識別子による空間参照系 (SI_SpatialReferenceSystemUsingGeographicIdentifier) は、座標参照系型 (RS_ReferenceSystem) の下位型であり、地理識別子による空間参照系を表す。</p> <p>属性 SI_SpatialReferenceSystemUsingGeographicIdentifier は、次の属性を必要とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. theme:CharacterString は、空間参照系が対象とする主題を記述し、その特性を明らかにする。 2. overallOwner:CI_ResponsibleParty は、この空間参照系に対し全面的に責任をもつ組織を CI_ResponsibleParty 型で示す。なお、CI_ResponsibleParty 型は、附属書 6 で定義する。 3. [上位型から継承する属性]name:RS_Identifier は、この空間参照系の名前を RS_Identifier 型で記述する。RS_Identifier 型は、附属書 2 で定義する。 4. [上位型から継承する属性]domainOfValidity[0..*]:EX_GeographicExtent は、この空間参照系が適用される範囲を EX_GeographicExtent 型で示す。なお、EX_GeographicExtent 型は、附属書 6 で定義する。
34	10.2.1	記述の追加(原規格との整合)	(記載なし)	<p>関連</p> <p>1. Comprises 関連は、この SI_SpatialReferenceSystemUsingGeographicIdentifier と SI_LocationType を関連付ける集成であり、SI_SpatialReferenceSystemUsingGeographicIdentifier は一つ以上の SI_LocationType を参照しなければならない。</p>

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
35	10.2.2	記述の変更(原規格との整合)	2. Comprises 関連は,RS_LRS と,この SI_LocationType を関連付ける集成とする。	2. Comprises 関連は , SI_SpatialReferenceSystemUsingGeographicIdentifier と,この SI_LocationType を関連付ける集成とする。
36	10.2.3	記述の変更(原規格との整合)	3. LRS 関連役割は, RS_LRS と, この SI_Gazetteer とを関連付ける。SI_Gazetteer は一つの RS_LRS を参照しなければならない。	(削除)
37	11 序文	原規格の変更に伴う修正	ISO 19110 (Geographic information – Methodology for feature cataloguing) から, 地物カタログを作成するために必要となる基本的な規則を抽出及び翻訳し, プロファイルとして定義したものである。	ISO 19110 (Geographic information – Methodology for feature cataloguing) を翻訳し, JIS X 7109 との整合を取るため, 技術的内容を変更して作成した JIS X 7110 (地理情報—地物カタログ化法) から, 地物カタログを作成するために必要となる基本的な規則を抽出し, プロファイルとして規定したものである。
38	11.2.2.6	記述の変更(原規格との整合)	地物属性定義域の要件	地物属性列挙型の要件

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
39	図 11-1	記述の変更(原規格との整合)		
40	表 11-1	記述の変更(原規格との整合)	(詳細省略)	(詳細省略。改正後の地物カタログの概念モデルに沿って全面変更)

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
41	附属書 1 6.1	記述の変更(原規格との整合)	<p>6.1 場所型</p> <p>a) 試験目的 各場所型が明確になっており、一つ又は複数の場所インスタンスによって一意に識別されていることを検査する。</p> <p>b) 試験方法 各場所型の属性が識別されており、場所インスタンスの地名辞典が存在することを検査する。</p> <p>c) 参照 10.2</p> <p>d) 試験種類 機能</p>	<p>6.1 地理識別子による空間参照系型</p> <p>a) 試験目的 地理識別子による空間参照系型が明確になっており、一つ又は複数の場所インスタンスによって一意に識別されていることを検査する。</p> <p>b) 試験方法 各場所型の属性が識別されており、場所インスタンスの地名辞典が存在することを検査する。</p> <p>c) 参照 10.2</p> <p>d) 試験種類 機能</p>
42	附属書 1 9.2	記述の変更(原規格との整合)	<p>9.2 RS_LRS</p> <p>a) 試験目的 RS_LRS が、このプロファイルに規定した属性及び関連に従ってインスタンス化されていることを確認する。</p>	<p>9.2 SI_SpatialReferenceSystemUsingGeographicIdentifier</p> <p>a) 試験目的 SI_SpatialReferenceSystemUsingGeographicIdentifier が、このプロファイルに規定した属性及び関連に従ってインスタンス化されていることを確認する。</p>
43	附属書 2	題名の変更(原規格との整合)	附属書 2 (規定) 参照系	附属書 2 (規定) 座標参照系

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
44	附属書 2 1.	記述の変更	<p>このプロファイルでは、時間参照系及び空間参照系は、この箇条で規定する型を使用する。</p> <p>また、このプロファイルに基づき作成される空間データ製品仕様書の時間参照系及び座標参照系は、JIS X 7115 の附属書 1（時間参照系）及び 2（座標参照系）に定められた略号の表記規則にしたがって規定する。</p>	<p>この附属書は、ISO 19111 (Geographic information - Spatial referencing by coordinates) を翻訳し、技術的内容及び規格票の様式を変更することなく作成された JIS X 7111 (地理情報—座標による空間参照) から、座標による空間参照を記述するために必要となる基本的な要素を抽出し定義したものである。</p> <p>また、ここで定義する参照系識別子は、空間参照系及び時間参照系を表すために使用するためのデータ型であり、JIS X 7115 の附属書 1（時間参照系）及び 2（座標参照系）に定められた略号の表記規則にしたがって規定している。このプロファイルにおいて座標参照系を用いる場合には、この附属書で規定する型を使用する。</p>
45	附属書 2 図附 2-1	記述の変更(原規格との整合)		

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
46	附属書 2 2.1	記述の変更(原規格との整合)	<p>2.1 RS_ReferenceSystem</p> <p>データ集合で使用する参照系についての情報を表す抽象クラス。(JIS X7115 が規定)</p> <p>属性</p> <p>1. name:RS_Identifier は、使用する参照系の名称を記述する。</p>	<p>2.1 RS_ReferenceSystem</p> <p>データ集合で使用する座標参照系及び地理識別子による空間参照系についての情報を表す抽象クラス。このクラスは JIS X7111 で規定されている。</p> <p>属性</p> <p>1. name:RS_Identifier は、この参照系の名称を RS_Identifier 型で記述する。</p> <p>2. domainOfValidity[0..*]:EX_GeographicExtent は、この参照系が適用される範囲を EX_GeographicExtent 型で示す。なお、EX_GeographicExtent 型は、附属書 6 で定義する。</p>
47	附属書 2 2.3	記述の変更(原規格との整合)	<p>属性</p> <p>1. typeCode:SC_TypeCode は、座標参照系の型コードであり、単一座標参照系のとき 1、複合座標参照系のとき 2 を設定する。</p> <p>2. remarks[0..1]:CharacterString は、座標参照系に関する注釈を記述する。</p> <p>3. [上位型から継承する属性]name:RS_Identifier は、使用する時間及び座標参照系の名称を記述する。</p>	<p>属性</p> <p>1. typeCode:SC_TypeCode は、座標参照系の型コードであり、単一座標参照系のとき 1、複合座標参照系のとき 2 を設定する。</p> <p>2. remarks[0..1]:CharacterString は、座標参照系に関する注釈を記述する。</p> <p>3. [上位型から継承する属性]name:RS_Identifier は、使用する座標参照系の名称を記述する。</p> <p>4. [上位型から継承する属性]domainOfValidity[0..*]:EX_GeographicExtent は、この座標参照系が適用される範囲を EX_GeographicExtent 型で示す。なお、EX_GeographicExtent 型は、附属書 6 で定義する。</p>

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
48	附属書 2 2.4	記述の変更(原規格との整合)	<p>属性</p> <p>1. [上位型から継承する属性]name:RS_Identifier は、使用する時間及び座標参照系の名称を記述する。</p> <p>2. [上位型から継承する属性]typeCode:SC_TypeCode は、座標参照系の型コードであり、単一座標参照系のとき 1、複合座標参照系のとき 2 を設定する。</p> <p>3. [上位型から継承する属性]remarks[0..1]:CharacterString は、座標参照系に関する注釈を記述する。</p>	<p>属性</p> <p>1. [上位型から継承する属性]name:RS_Identifier は、使用する座標参照系の名称を記述する。</p> <p>2. [上位型から継承する属性]domainOfValidity[0..*]:EX_GeographicExtent は、この座標参照系が適用される範囲を EX_GeographicExtent 型で示す。なお、EX_GeographicExtent 型は、附属書 6 で定義する。</p> <p>3. [上位型から継承する属性]typeCode:SC_TypeCode は、座標参照系の型コードであり、単一座標参照系のとき 1、複合座標参照系のとき 2 を設定する。この値は、name 属性で設定された座標参照系の名称から導出可能である。</p> <p>4. [上位型から継承する属性]remarks[0..1]:CharacterString は、座標参照系に関する注釈を記述する。</p>
49	附属書 8 5.4	記述の変更	<p>1. 名前空間</p> <p>http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/standardSchemas2.0_2008-04</p>	<p>1. 名前空間</p> <p>http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/standardSchemas2.1_2009-05</p>
50	附属書 8 5.7	記述の変更	<p>標準 XML Schema は次の URL のファイルを使用する。</p> <p>http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/standardSchemas2.0_2008-04</p>	<p>標準 XML Schema は次の URL のファイルを使用する。</p> <p>http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/standardSchemas2.1_2009-05</p>
51	附属書 9 2.	記述の変更	<p>四辺形グリッド被覆の XML Schema 文書は次の URL にあるファイル jpsGrid.xsd を使用する。</p> <p>http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/standardSchemas2.0_2008-04</p>	<p>四辺形グリッド被覆の XML Schema 文書は次の URL にあるファイル jpsGrid.xsd を使用する。</p> <p>http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/standardSchemas2.1_2009-05</p>

番号	章/節/項	内容	改訂前	改訂後
52	附属書 10 5.	記述の変更	描画法の XML Schema 文書は次の URL にあるファイル jpsDictionary.xsd 及び jpsFeaturePortrayal.xsd を使用する。 http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/standardSchemas2.0_2008-04	描画法の XML Schema 文書は次の URL にあるファイル jpsDictionary.xsd 及び jpsFeaturePortrayal.xsd を使用する。 http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/standardSchemas2.1_2009-05
53	附属書 12 序文	記述の変更	この附属書は、ISO 19136 (Geographic information - Geography Markup Language (GML)) を使用して、簡条 本体 5. ～11. に基づく応用スキーマ及び空間データを符号化する際の規則を定める。	この附属書は、ISO 19136 (Geographic information - Geography Markup Language (GML)) を使用して、JPGIS に基づく地理空間データの応用スキーマを符号化する際の規則を定める。
54	附属書 12 1.	記述の変更	規則 1. ISO 19136 を用いて空間データの応用スキーマを符号化する場合には、本体に規定する要素(本体規定要素)に対応する ISO 19136 の要素を使用する。対応する要素を、表附 12-1 に示す。 2. 空間データを符号化する際に使用する標準スキーマを、簡条 本体 6. ～10. に規定する拡張規則に基づき拡張し、これを符号化する場合、ISO 19136 の範囲内で符号化することができる。 3. 符号化した空間データは、規則 1 及び 2 に従い作成した GML 応用スキーマに対して妥当でなければならない。	規則 1. ISO 19136 を用いて JPGIS に基づく地理空間データの応用スキーマを符号化するには、ISO 19136 に準拠しなければならない。JPGIS が規定する要素に対応する ISO 19136 の要素を表附 12-1 に示す。 2. 地理空間データを符号化する際に使用する標準スキーマを、JPGIS の拡張規則に基づき拡張し、これを符号化する場合、ISO 19136 の範囲内で符号化することができる。
55	参考資料	参考資料の削除	(参考資料) ISO 19136 Geographic Information — Geography Markup Language (GML) 附属書 E (規定) の概要	(削除)